

看護の現場に再び

復帰後押し 初の研修会



製鉄記念室蘭病院の潜在看護師復職支援研修会で、採血時の対応などを確認する参加者

一方、医療現場では、人材不足解消の観点からも、経験を持つ潜在看護師の積極的な復職を呼び掛けている。製鉄記念室蘭病院でも、地域医療の一層の充実を図る観点から、初めて復職支援研修会を実施し、女性3人が参加した。

参加者は、採血・注射練習用の人工腕を用いた実習にも挑戦。採血後には自動的に収納される針や、用途に沿った真空採血管などの

医療現場から離れた看護師（潜在看護師）の現場復帰を支援する室蘭市知利別町の製鉄記念室蘭病院（松木高雪院長）の「復職支援研修会」が7日、同病院で開かれ、参加した

潜在看護師3人は、最新の器具類を使った採血方法などについて、熱心に学んでいた。医療の進歩などを踏まえ、潜在看護師の中には、復帰に二の足を踏んでいる現状も多い

特長を確認。採血や注射時の感染症対策や安全対策も学ぶなど、最新の看護事情に合わせた医療現場での対応について、アドバイスを受けていた。

（松岡秀宜）